

令和5年度第1回茨城県央地域ウエルネス推進協議会 会議録

1 会議の名称 令和5年度第1回茨城県央地域ウエルネス推進協議会

2 開催日時 令和5年7月18日(火) 14時～15時

3 開催場所 水戸市役所本庁舎4階 政策会議室

4 出席した者の氏名
別紙「出席者名簿」のとおり

5 議 事

(1) 令和5年度実施の社会実験について

(2) 今後の取組の方向性について

ア ガバメントピッチへの応募について

イ 応募に向けたテーマの抽出について

6 会議資料の名称

- ・ 次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 資料1 令和5年度実施の社会実験について
- ・ 資料2 今後の取組の方向性について
- ・ 参考資料 これまでのガバメントピッチについて
- ・ 意見書

7 発言の内容

【執行機関】 それでは、定刻となりましたので、ただ今から、令和5年度第1回茨城県央地域ウエルネス推進協議会を開催いたします。

本日は、御多用の折にもかかわらず、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

年度が変わりまして、委員の皆様に変更はございませんが、前回____委員様が、欠席でありまして、本日お見えになっておりますので、改めて御紹介させていただきます。

【____委員】 ____ですよろしくお願いいたします。

【執行機関】 ありがとうございます。

次に事務局に変更がありますので、紹介をさせていただきます。

(事務局紹介)

【執行機関】 続きまして、行政を代表しまして、水戸市保健医療部長の____より、御挨拶申し上げます。

【____部長】 本日は、大変お忙しい中、また大変お暑いなか、令和5年度第1回茨城県央地域ウエルネス推進協議会に、御出席いただき、誠にありがとうございます。

委員の皆様方には、日頃から、県央地域の発展のために、多大なる御尽力をいただいておりますことに、心から御礼を申し上げます。

また、昨年度、当協議会を設立し、その運営に御支援と御協力を賜っておりますことに、重ねて深く感謝申し上げます。

ICTを活用した健康づくり事業につきましては、「いばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョン」の計画期間である5年の間に、社会実験を2つ実施することを目標値としております。

昨年度にアンケートを実施したところであり、今年度は実際に社会実験に取り組むこととしております。

本日は、委員の皆様、事前に御通知差し上げましたとおり、今年度実施予定の社会実験の内容を御報告させていただくとともに、今後実施していく社会実験の方向性につきましても御審議いただきたいと考えております。

限られた時間ではございますが、忌憚のない御意見を賜りたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【執行機関】 ありがとうございます。それでは、ここからは議事に移らせていただきます。

議事進行は、____会長にお願いしたいと存じます。____会長、よろしくお願いいたします。

【会 長】 それでは、皆様よろしくお願いいたします。

議事に入りますが、議事に先立ちまして、本日、____委員、____委員、____委員は所用のため欠席となります。

次に、本日の会議録署名人につきましては、____委員、____委員のお二人を指名させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これより議事に入ります。議題(1)令和5年度実施の社会実験について、事務局から説明をお願いいたします。

【執行機関】 それでは資料1を御覧ください。

令和5年度実施の社会実験についてです。1 社会実験について、2点書いてございますが、足の健康診断アプリを活用した社会実験と、認知機能訓練「ペグ・アモーレ」を活用した社会実験、こちら2点を実施して参りたいと思います。

これまでの経緯についてですが、昨年11月29日に第1回のウエルネス推進協議会を開催した後に、民間企業である官民連携事業研究所、または東京ビックサイトの方で開催するヘルスケアIT2022に参加したりですとか、茨城県の産業戦略部技術革新課などを通して、いろんな事業者に対しアプローチをかけてきたところ、

しかし、なかなか費用の面で折り合いがつかず、先が見えない状況だったところ、

関東産業経済局の次世代産業課の方に相談し、経済産業省の方でやっている、地域企業共生型ビジネス導入創業促進事業というのがございまして、こちらの補助事業の方に、申請を出される会社であるジャパンヘルスケアさんを御紹介いただきました。今回そちらのジャパンヘルスケアさんの補助事業に、一緒に乗る形で、社会実験を実施するということになりました。

2 実施内容の(1)足の健康診断アプリですが、こちらの社会実験の目的としましては、足腰の痛みなどの筋骨格系疾患は、世界の5分の1の人が抱えている問題であり、要介護の原因の3分の1を占めるなど、健康寿命を短くする大きな要因となっています。多くは早期介入で予防が可能であり、特に、骨格をつくることも期に足などのよりよい発育を促していくことが重要だと考えております。

歩くということは、老若男女問わずに行うことが可能な身体活動でありまして、動作の質や強度を考慮することによって、健康増進や生活習慣病予防のための運動にも繋がるすることができます。

しかし、間違った歩き方をしていると、身体がゆがんだり、痛めたりする危険性もあるため、足の健康診断アプリを通して自分の歩き方を知ることによって、健康づくりへの関心を高め、歩き方が将来的な介護予防やフレイル予防に繋がるかを検証することといたします。

下の図を御覧いただくと今回予定されているアプリの画面になります。

足の写真を何枚か撮っていただきますと、こちらのアプリと連動しまして、かかとの傾きや土踏まずの高さ、親指や小指の曲がり具合や足幅などを計測してくれます。

2ページを御覧ください。こちらのアプリを使いました社会実験を、イベントとして開催しようと考えておりまして、来年の1月14日にですね、アダストリア水戸アリーナで行います、水戸市スポーツ健康フェスティバル、こちらのイベントの中で実施したいと考えております。

この水戸市スポーツ健康フェスティバルというのは、これまで千波湖スポーツフェスティバルと言って、千波湖の屋外でスポーツを中心としたイベントとして行ってきたところですが、リニューアルをいたしまして、健康と一緒に、室内のイベントとして開催するのが、今年度初めてになります。コロナで実施できてこなかったというのがありますが、健康とスポーツを一緒に合わせたイベントというのは、今年初めてになるイベントとなります。

また、当日はメインアリーナの方で、SONPOボールゲームフェスタというイベントも開催されておりまして、集客が見込めるのではないかと考えております。

こちらの中で、足健診のイベントを実施しまして、そこでは足病医学スペシャリストの理学療法士の方が、ジャパンヘルスケアさんからいらっしゃいますので、そちらの理学療法士の方の解析、そして、足健診の結果を即日にお渡ししまして、その後、必要に応じて、足や靴の相談を受けるということになります。

主にジャパンヘルスケアの役割としましては、広報のデザイン作成から、足健診

の実施と結果の提供，そしてその足健診へのアドバイスとその後の受診勧奨等になります。

水戸市におきましては，会場の提供と，当日のサポート，アンケートの実施などをして参りたいと思います。

連携市町村におきましては，このイベントの周知をお願いしようと考えております。

今回社会実験を行うジャパンヘルスケアにつきましては，東京本社の主に歩行診断診断のソフトウェア開発や，ウォーキングレッスンなどを行っているベンチャー企業となっております。100歳まで歩ける社会を目指して，環境改善型予防医学で，筋骨格系疾患の予防システムを構築することを目指している会社になります。

先ほども申し上げましたが，今回こちらの会社が，令和5年度の経済産業省の地域企業共生型ビジネス導入創業促進事業補助金，こちらが採択されまして，一緒に事業を行うことになりました。

こちらの補助申請につきましては，69社の応募がありまして，その中で18社が採択されたところでございます。

次に，認知機能訓練のペグ・アモーレですが，こちらは2月に開催されましたヘルスケア I T 2022の会場に茨城県のブースが出展しておりまして，そこでお話を伺った会社でございます。

こちらは筑波大学の大蔵研究室で，身体機能と認知機能の関連性の研究を行う中で，指先の動きが認知機能と最も強く相関することを見出しまして，その成果のもと，ペグ操作と，トレイルメイキングテストを組み合わせることによって，ペグ・アモーレが誕生したところです。

このペグ・アモーレによりまして，自分の認知機能のレベルを把握することで，今後の自発的な行動改善につなげ，介護の予防に努めていくということになります。

今回は市が行う事業やイベントの中において，どのような機会体験したいか，アンケートで把握することで，行政側からのアプローチの機会をとらえることを目的としております。

3ページを御覧ください。こちらペグ・アモーレの写真になります。この機器を使いまして，こちらも同様に水戸市スポーツ健康フェスティバルの中で，足の健康診断と一緒に令和6年1月14日に開催したいと考えております。

株式会社ニューコムという会社なのですが，こちらの方では，ペグ・アモーレの貸し出しと測定の補助と機器の説明をお願いしようと考えております。

水戸市においては，会場の提供と当日のサポートとアンケートを実施し，連携市町村におきましては，こちらのイベントの周知をお願いしようと考えております。

ニューコムの本社は埼玉ですが，このペグ・アモーレを作ってるのは，シロク事業部という，茨城県のつくば市にあるところでメインに行っております。

これらの社会実験の結果につきましては，アンケートをもとに，実現の可能性やリスク・効果・コストなどを評価し，報告書としてまとめまして，本協議会に，報告

いたします。また、圏域住民等にも、ホームページで広く公表していきたいと考えております。

市町村におきましては今後の事業化に向けた検討に役立てて参りたいと考えております。

説明は以上です。

【会 長】 ありがとうございます。ただいま事務局から、令和5年度実施の社会実験についての説明がありました。これについて、御質問、御意見等がございましたらお願いいたします。

【___委員】 よろしいですか。___です。

これ2つ見ましてね、すごく素晴らしいなと思いました。歩くということは非常に大事なのですが、やはり年齢を重ねると歩くということがほとんどなくなりまして、それが生活習慣病等に非常に悪い影響を及ぼしてしまいます。歩くだけでもいろんな、Hb A1c (ヘモグロビンエーワンシー)等の数値もちょっと良くなります。

それから、2番目の認知機能訓練、大蔵先生の研究室は身体機能と認知機能の関連性の研究、まさしくこの介護認定で、身体と認知っていうのは大きな柱なんです。この部分がしっかりやられてると、介護の状況もよくなっていくということなので、こういう事業は、かなり関心を持たれるんじゃないかと思って、素晴らしいなと思って、意見を述べさせていただきました。以上です。

【会 長】 ありがとうございます。他にありますか。

【___委員】 よろしいですか。

この2つの社会実験に関しまして、周知のところですが、例えば県央地域の県民の皆様にも周知する上で、何かテーマになるようなものはありますか。

歩く訓練、認知機能訓練に関して、県民の皆様にも周知する上での、何かこう、歩く訓練に関してこういうものなんですよっていうふうに、もっと分かりやすいようなテーマやサブタイトルみたいな作ってもいいんじゃないかなというには、実際に思いました。

やはり足の健康診断をやりますよと言われても、どのようなことをやるんだろうという形になると思います。県央地域の県民の皆様にも周知するうえで、どのように社会実験をしていくことになっていきますよというような、イベントに関する公表と言いますか、そういうものに臨んでみてはいかがかなと思っているところです。以上です。

【会 長】 事務局の方、何か周知の方法ですとか、そういったことについては提案というか、考えてらっしゃることはございますでしょうか。

【執行機関】 はい。今の段階でまだ詳細を詰めていませんが、御意見を反映して周知に努めて参りたいと考えます。

【会 長】 他いかがでしょう。___委員お願いします。

【___委員】 すみません、対象年齢はどの程度を想定していますか。

【執行機関】 小学生以上であれば測定可能かと思っておりますので、実際に足の方は小学校で社会実験を実施したことがあるようなので、小学生以上で実施したいと考えております。

【___委員】 ペグ・アモーレのほうはどうですか。

【執行機関】 イベントの時はどなたでも実際に体験していただこうと思うんですが、実際の対象は、中高年以上になるかと思えます。

【会 長】 よろしいでしょうか。___委員。

【___委員】 この社会実験で足健診とか、分析とかをしてくださると思うんですけど、そのあとに、足や靴の相談をして、アンケートをして、そのあとに何か段階というのがあるんでしょうか。

前にいただいた資料に、インソールを作るとか、そういう項目があったんですけど、インソールを作るとか、足の健診のあとに何かというステップはありますか。

【執行機関】 会社の商品になりますが、個別に硬性立体インソールこちらを販売しておりますので、中にはそういったお話に進む方もいらっしゃるかと思います。

【___委員】 わかりました。ありがとうございます。

【会 長】 他いかがでしょう。

【___委員】 すみません度々。先ほどの___委員の御意見本当に大事だと思います。

文書だけでいろんなものを流しても、まず人は見ません。見ないです。

私、実は今年から区長をやっていますけども、市の広報紙を出しても本当に見てくれないんです。

ただ、これ内容は非常に興味がある内容だと思います。なにかしらもっと文書だけでなく、何かこう、啓蒙的なものがあれば、多分、かなり関心を持ってくれると思うんですよ。私もやってみたいとか。多分いっぱいいると思うんですよ。だから、何かしらその啓蒙の方法を、文章だけじゃない方法を考えていただきたいと思います。

【会 長】 ありがとうございます。そのあたりイメージとかありますでしょうか。

【執行機関】 よくLINEによる情報発信をしておりますして、結構広報紙などよりも、LINEで知ったっていう方がいらっしゃるの、いわゆる今流行りのSNSですか、そちらを活用して、広報して参りたいと思います。

【会 長】 ありがとうございます。他いかがでしょう。___委員お願いします。

【___委員】 我々食生活改善推進員の役員やっていますけども、今日の協議会に来るまで、実際何をやっていいんだろうということで漠然としてたんですけども、今日皆さんからこのお話を聞いて、我々食生活改善推進員の役割っていうのもここで見えてきたような感じがします。会員の皆さん結構人数がいらっしゃいますので、是非こういうことをやってるんですよっていうことをね、アピールできるいい機会なのかなあと思ってますので、この集客方法についての具体的な方法を考えていただければありがたいなと思っております。

今日はありがとうございました。実際ね、私たち何をやるんだろうと思っていた

んですけれども、今回来てよかったと思います。やるべきことがわかりました。ありがとうございます。

【会 長】 はい、それでは___委員お願いします。

【___委員】 すいません。今日ですね、ここに来るのがぎりぎりになって申し訳ございませんでした。先に謝っておきます。

それですね、前に配られました資料のなかから、足の健診やインソールによる治療とか対応ですね、これはウェルネスの観点から見ても大変素晴らしいことだと思います。

ただ、この健診だけで終わっちゃいますと、それはほとんど意味がなくなります。

例えば、その健診によって異常なしと言われた人と、異常ありっていう人もいると思います。

異常なしの人は、そのあと油断しちゃいますと駄目ですし、異常ありっていう人はやっぱり、適切な対応をしていただいて、継続していく方法を、私たちは常に頭に入れて、皆さんに対応していかなければならないと思います。そういう点はどういう形になりますか。

【会 長】 いかがですか。社会実験から継続して活動につなげるようなものというのは、何か想定はしていますでしょうか。

【執行機関】 この事業は社会実験ですので、その結果を受けて、どう活用していくかは各市町村の判断になってくるかと思いますが、今後続けられるような要素が9市町村で整えば、この中で議論して、事業として実施していくことも可能かとは思いますが。

【会 長】 よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。他はいかがでしょう。

【___委員】 ___です。先ほどLINEによるお知らせということがありましたけれど、それが水戸市だけでなく、近隣市町村、それぞれの地域で多分SNSをやっていると思うんですけども、水戸市だけではなくて、近隣市町村にもつながるような広報を進めていただけたらと思います。以上です。

【会 長】 その辺りは可能でしょうか。

【執行機関】 はい。申し訳ありません。説明が足りませんでした。広報・周知につきましては全ての市町村で、一斉にお知らせして参りますので、各市町村で持ってるSNS等でも、発信していただこうと考えております。

【会 長】 はい、ありがとうございます。他はいかがでしょう。

【___委員】 すみません度々。先ほどのLINEでやられるってことは非常によいと思います。もう一つはですね、QRコードを利用して、動画で見れるってのは非常に参考になるんですね。例えば足のほうはこんなふうにしてこんなふうになりますよというのは、動画で見ると、そうなのか、となります。

文書では見ませんが、動画だとお年寄りも若い人に操作してもらって見れますので、是非そういうものの導入も考えていただければと思います。

【会 長】 この会社のPRのようなものっていうのは何かありますでしょうか。ホームページに繋がって、そこで会社の情報が見られるとか。

【執行機関】 これまでの社会実験を行った動画等は実際にありますが、その辺、参考にさせていただきまして、必要に応じてチラシ等にQRコードを使って、動画も入れられるかどうか、ジャパンヘルスケアさんと相談させて、実施させていただきたいと思えます。

【会長】 ありがとうございます。他いかがでしょうか。

私から、当日このイベントには委員の皆さんも参加することは可能ですか。

【執行機関】 絶対ではございません。是非よろしかったらおいていただければ。実際に足健診を体験していただいて構いませんので、よろしくお願いいたします。

【会長】 当日飛び込みでも大丈夫ですか。

【執行機関】 当日飛び込みでも大丈夫です。

【会長】 すいません私その日ちょっと無理なんです、委員の皆さん、もしお時間ございましたら、是非よろしくお願いいたします。

他いかがでしょうか、よろしいですか。

(意見・質問等なし)

【会長】 それでは、御報告のありました、2つの社会実験につきましては、今年度協議会の取組として実施していくということでよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

【会長】 ありがとうございます。

それでは当協議会として、この2件の社会実験を実施していくこととします。

それでは次の議題に移らせていただきます。

(2)今後の取組の方向性についてということで、ア ガバメントピッチへの応募について、イ 応募に向けたテーマの抽出についてを一括して事務局から説明をお願いします。

【執行機関】 それでは資料2、今後の取組の方向性について説明させていただきます。

令和5年度以降の社会実験については、引き続き、当協議会で協議し、実施していくこととします。

令和6年度の実施に向けては、健康課題を抱える自治体と、ヘルスケア関連企業とのマッチングを図る、国主催のイベントである下記のガバメントピッチに、協議会として今年度に応募することとしたいと考えております。

最終的に企業とマッチングを行い、令和6年度の実証実験につなげていきたいと考えております。

ではこの「ガバメントピッチ」というイベントとはなにか、ということで(1)ガバメントピッチの概要です。

自治体が健康増進・介護予防・疾病予防・生活支援等ヘルスケア分野に関する地

域課題を発表し、各課題の解決に向けて協働できる企業から、解決策の提案を募集することで、マッチングを図るイベントとなっております。

つまり、自治体はガバメントピッチというイベントの参加者として応募し、「このような健康課題がある」とプレゼンを行い、それを聞いた企業が「うちならそれを解決できるこのようなサービスがある」と提案してもらい、そのマッチングを図るものです。

ここで別添の参考資料「これまでのガバメントピッチ」を御覧いただきたいのですが、こちらは前年度と一昨年度のガバメントピッチで、自治体が発表したテーマの一覧と、各年度の概要となっております。

例えば1枚目上の表の4番、松本市の例なのですが、松本市では高齢化の進展や糖尿病罹患者の増加により、将来的な医療費の増大が課題となるということで、健康無関心層に対して、無理なく健康への意識を向上し、習慣化してもらうための仕組みを探索するため、このようなテーマでプレゼンをしております。

そのテーマに対して、ここでは4社から手があがり、マッチング相手であるシルタスは買い物から栄養が把握できるアプリの提供、今回当協議会の実証実験の相手にもなっているジャパンヘルスケアでは正しい歩行を促すインソール、歯っぴー株式会社ではAI画像処理による口腔ケア、サンドディーアイジー株式会社ではLINEを利用したウォーキング促進、といった提案があったという形です。元の資料2に戻らせていただきます。

令和5年度のガバメントピッチ応募概要についてですが、前年度は夏頃の開催でしたが、今回は12月以降に予定されています。ただし、詳細はまだ出ていないところでございます。

(2)募集対象についてですが、健康課題を持ち、その解決に向けて意欲を持つ自治体ということになっています。

なお、応募自治体が多かった場合など、内容の審査によってはガバメントピッチに応募しても、参加に漏れてしまう自治体が出る可能性はあります。

次のページに進みます。

2 応募に向けたテーマの抽出についてです。このガバメントピッチに、当協議会として応募するにあたり、どんな健康課題・テーマで臨むか、というところが、2ページ目以降でございまして、ここからが特に、委員の皆様にお諮りしたい点でございまして。

ガバメントピッチで提案する健康課題・テーマの分野を、ここでは5つに絞らせていただいております、ここから基本的に1つ、テーマを決めたいと考えております。

なおこの5項目というのは、国が定めた国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本方針である、「二十一世紀における第三次国民健康づくり運動(健康日本21(第三次))」において、個人の行動と健康状態の改善に関するものとして挙げられている主な項目です。

また、県央地域の健康課題を検討するという事なので、前年度に県央地域で実

施したアンケート結果から、各項目に応じた内容を参考として記載しています。

それではそれぞれの健康課題・テーマです。

1つ目が「栄養・食生活」です。アンケート結果から見える特徴といたしましては、食事において実践している取組として、「野菜を多く食べる」、「朝昼晩と3回規則正しく食べる」という回答は多い一方、「油分を控える」、「糖分を控える」という回答は少なく、意識に差があることがわかります。

(2) 身体活動・運動についてですが、自分の健康に関心があると回答した割合は9割を超え、なかでも「身体活動・運動」に関心があるという回答が最も多いところ、普段健康のために運動している割合は5割以下であり、健康への関心が実際の行動に結びついているとは少し言いにくい状況です。

また、具体的な運動の取組として、ウォーキングや体操など、比較的激しくないものを実施している人が多かったところです。

(3) 休養・睡眠について、「睡眠は十分にとれていますか？」という質問に対し、43%の人が十分に睡眠を取れていないと感じており、注視すべき結果でした。

(4) 歯・口腔の健康について、歯の健康のために行っていることとして、約8割の方は「歯みがきをする」と回答しているところ、「糸付きようじや歯間ブラシを使っている」、「歯科検診(歯石除去)を受けている」という回答は4割程度と少なくなっている状況です。

最後に、(5) 生活習慣病の発症予防・重症化予防ですが、茨城県における特定健診やがん検診の受診率は、高いとは言えない状態が続いているところです。アンケート結果によると、健診を受けない理由については、「忙しくて時間がない」、「面倒くさい」といった回答が多く見られるため、意識の変容によっては大きく改善する余地があると思われます。

以上が応募の候補となる5つテーマ・分野と、アンケートから見るそれぞれの状況でした。

次の3 応募への手続き等については、また少しあとで触れさせていただきますので、次の3ページへお進みください。

先ほどまではアンケート結果から状況を確認しましたが、他にも県央地域や県別の状況を把握するために、より客観的なデータを確認し、いくつか参考としてまとめたものが3ページ以降の資料になります。

それぞれ細かい数字を見ると言うよりは、簡単に主な傾向について触れたいと思います。

まず平均寿命と健康寿命についてです。

上の表は各市町村の平均寿命を表しております。県央地域の平均値は県と同等ですが、国と比較するとやや低い傾向が見えます。

下の図は茨城県の状況ですが、上の線丸いマーカーで平均寿命と、健康状態で生活することが期待される平均期間、いわゆる「健康寿命」を下の線四角いマーカーの折れ線グラフで表しています。

そして矢印で示すこれらの差は、つまり「不健康な期間」を表しています。

この図は、平均寿命はH22, H27, R 2でデータをとっており、健康寿命については括弧内の数字、H22, H28, R 1のデータで、同一の年度ではなく、近い年での比較となっていて恐縮ですが、特に右下の図、女性の方は平均寿命が高いこともあり、不健康な期間が10年以上と、長い期間となっていることが推定されます。

続きまして、4ページ、標準化死亡比についてです。

少し言葉の補足をさせていただきますと、標準化死亡比とは、簡単に言うと「死亡率が全国の何倍高いか」を表したもので、それを選択死因別、つまりは主な死因別に分けたものです。

こういった統計データは通常、算出した値に幅がありますが、その幅を踏まえても、死亡率が明らかに高いと言えるものを「有意に高い」といいます。

ここで表2を御覧いただきまして、こちらは死亡率が全国より明らかに高くなっている市町村が多い死因を、上位3位まで表しています。

例えば男性は9市町村中7市町村で、女性では9市町村全部で、急性心筋梗塞による死亡率が全国より高くなっている状況です。

その他脳血管疾患や肺炎での死亡率も、全国より高い市町村が多い状況ということで、これらに対する取組として、禁煙や減塩の取組、適正体重の維持といった生活習慣の改善が重要と思われれます。

上の表は県央地域で見たデータですが、下の表は県内市町村全体で見たものです。

こちらやはり、急性心筋梗塞、脳梗塞、肺炎といった生活習慣病での死亡率が高い市町村が多いという状況が見られます。

続きまして5ページに移らせていただきます。こちらは、運動、特に歩数に関する状況です。

こちらは、茨城県が、県民の健康づくり活動を推進するために提供している「げんきアップ！りいばらき」というアプリからのデータとなります。

このアプリは累計で50,000を超えるダウンロード数となっているところです。

全市町村的に女性の歩数が男性に比べ少ないところですが、男女ともに、ほとんどの市町村では、国が目標に掲げている目標値(7,100歩)を達成していないところでは、

また、こういったアプリを導入しているのは比較的「健康意識の高い層」であると想定されますが、それでもまだまだ目標に及ばないということは、実際はこれよりも歩いていないのではないかとということも考えられます。

続きまして、歯の健康、ここでは茨城県における40歳、50歳、60歳、70歳の節目年齢の方を対象とした歯周病健診のデータになります。

歯周病健診をそもそも受けている方が少なく、受診率は3%台と見込まれます。

また、歯周病健診を受けたなかで、グラフでナナメとドットの模様がついている部分、要精密検査と要指導の方は、歯周病健診を受けたなかで8割から9割弱いるような形です。

続きまして、6ページとなります。

こちらは各市町村別に、国民健康保険の被保険者を対象とした、5つのがんの検診状況を表しております。

こちらの表のうち、色がついているところが、茨城県全体の受診率よりも低くなっている箇所です。

おおまかに見ると、特に下2つ、女性が受ける乳がん、子宮がん検診において、茨城県の数値を下回る市町村が多い傾向が多く、県央地域を合計した値に関しても、茨城県を下回っております、すこし数値が低い状況となっております。

続きまして7ページに移らせていただきます。

こちらは特定健康診査受診率を、国民健康保険の対象者で見た状況となります。

各市町村で数字にばらつきがありますが、県央地域での平均は、県全体よりも低くなっております。

長くなりましたが、アンケート以外から見る県央地域及び県の状況でした。

最後に、テーマの決定について補足させていただきます。お手数ですが今の資料2ページにお戻りいただきたいのと、本日配付した一番最後にある資料「意見書」を御覧ください。

このうち特に意見書の下にある「イ 応募に向けたテーマの抽出」ですね、このなかからテーマをお選びいただき、さらにそのテーマで特に課題となることは何かというところを御記入いただきたく存じます。

例えば、5生活習慣病の発症予防・重症化予防であれば、受診率の向上、ですとか、健康無関心層へのアプローチ、といった具合でお書きいただければというところでございます。

内容を記入・提出いただき、さらに本日これから議論いただく内容と合わせ、事務局の方でガバメントピッチに応募する健康課題・テーマを決めたいと考えております。

こちらの意見書は、本日のこの会議後に提出いただくか、来週の火曜日までに提出いただければと考えております。

メールアドレスを把握させていただいている方については、会議終了後にメールで意見書の様式を送付させていただこうかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

長くなりましたが、事務局からの説明は以上となります。

【会 長】 ありがとうございます。ただいま事務局から説明がありましたが、御質問・御意見等がございましたらお願いいたします。

特にこの2ページ目のこのテーマについてですね、どういう形で絞っていくかですとか、そういったことについて、データ等も参考にしながらよろしくお願いいたします。

【___委員】 この健康課題・テーマ、どれも素晴らしく、良いですね、
今ここで、どれがどうとあんまり言えなくて、何となくどれもやりたいなという

感じがするんです。それぞれ皆さん、委員の立場的なものもかなり出てくる場所ですね。

私、薬剤師ですから、4のところは多少専門じゃないですが、もう1・2・3・5は全部関わっていると思うので、本当にどれがいいか、一概には言えないので、後でFAXで述べさせていただきたいと思います。

どの案も素晴らしいと思います。以上です。

【会長】 ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

【___委員】 健康課題のテーマで、アンケート結果からの考察ということでもありますけども、これは水戸市のアンケート結果ですよ。このアンケートの集計なのですけれども、どれだけの人数でどの対象の方が多かったとか、そういう細かいことにはなるかと思うんですが、アンケートの集計の結果等々を、何名で、回収率がどれくらいで、回答率の年齢層というんですかね、それがどこが多かったのかをお聞きしたいなと思います。

小美玉市あたりでもこういうアンケートをやりましたけども、結局回答はかなり少なかったり、年齢的にも偏った集計が出たりしたものですから、水戸市さんの場合はどうなのかなってということが気になりまして、お願いできたらと思います。

【会長】 事務局の方からあれば。

【執行機関】 はい。すいません。アンケートについての補足になりますが、こちらは前年度に水戸市だけではなく、この9市町村で行ったアンケート調査になっております。

どの市町村が何%という細かい数字は今手元になくて恐縮なのですが、9市町村全体で1,155人からの回答があったところでありまして、確かに人口の多い市町村の方が、回答の数自体が少し多めにあったというところではあります。全体では1,000人を超えるアンケートの回答があったところでございます。

【___委員】 ありがとうございます。9市町村が入ってるということで安心しました。

【会長】 ___委員お願いします。

【___委員】 県央地域でのいわゆる今年、昨年度までの高齢化率というのに関しましてお聞きしたいと思います。9市町村ございますけども、もしそのへんがわかりになれば、健康課題に関するテーマの一つの礎になるかなと思ったところなんです。以上です。

【会長】 このあたりのデータはすぐに出ますか。

【執行機関】 すいません手元に細かい数字がなくて、大変申し訳ないんですけれども、すぐにはお答えできません。

【___委員】 了解しました。後程、御提示いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【会長】 他はいかがでしょうか。

【___委員】 ちょっと伺いたいんですけれども、今回の社会実験は足の健診となって、ガバメントピッチの方は色々範囲が広がっていますが、これは統一しなくても、いろんな角度からという観点で考えればよいですか。

足腰であれば身体活動というように統一した方が、絞れていいのかなと。いろん

な角度から考えればよろしいでしょうか。

【会 長】 いかがでしょうか。

【執行機関】 広く御意見を伺いまして、テーマを絞っていくということになりますので、運動系で、御意見が多ければそちらで絞っていくような形になります。

【会 長】 他いかがでしょうか。

【___委員】 よろしいでしょうか、___です。

アンケート結果からの考察というところなのですが、これは私たち、一番最初の頃にいただいた資料に、各市町村ごとのアンケート結果が確か全部出ていたんじゃないかと記憶しておりますので、皆さんお帰りになったら、その資料を見ていただければ、ご自分の市町村の課題が見えてくるのではないかなと思いました。

それから、年代によっても、課題となる内容は違ってくると思うんですよね。育ち盛りのお子さんにとっては、運動は、遊んだりで大分しておりますけれども、やっぱり、朝ご飯の欠食とか、そういう問題が出てきておりますし、ある程度の年齢になってくると、食べ過ぎとか糖尿とか、働き盛りの問題があります。それから、年をとって参りますと、フレイルの問題、いろいろ年代層によって、テーマがほとんど変わってきます。

私は今高齢に差ししかかっておりますけれども、子供も孫も、それぞれの年代で、課題はいろいろ抱えております。

それなので、どのようにテーマを絞ろうかと、頭を悩ませていたところなので、帰ってから、事務局さんや保健師さんとかにもお話を伺いながら、今日でなくて、後でテーマの方は絞らせていただきたいと思います。以上です。

【会 長】 はい、ありがとうございます。本日ここで決めるというよりは、皆さんのいろいろな御意見をお伺いして、それを事務局の方で取りまとめいただいて、それで徐々に絞っていくっていうふうな形になると思いますので、是非いろいろな視点から御意見いただければと思います。よろしくお願いします。

___委員お願いします。

【___委員】 先ほども対象のお話を伺いましたが、テーマがとても広いので、今も年齢によって違うんじゃないかということで、医師会の立場だと例えばがん検診を受けて欲しいとかすごくあるんですけど、例えばがん検診だったら、この表にも出ている70歳未満ぐらいが対象で、特定健診だと75歳未満までが対象になっているし、もっと上の高齢者の方の、歩くといったことや医療費の方を対象に考えると、また別の考え方になるのかなと思います。

いろんなところをいろんな方面から見るというふうになると思うのですが、この協議会としてバラバラでいろんなものを出してしまっているのか、テーマがバラバラになり過ぎちゃうのかなと思ひまして、御意見を伺えればと思います。

【会 長】 まず例えばこの参考資料、これまでのガバメントピッチで採用されたようなテーマを見ていきますと、やはり高齢の方、福祉関係がある程度こうあって、あとは残りの部分がすべての年齢層に当てはまるようなテーマかなと思います。

やはりそのあたりを、大ざっぱにでも、ある程度広く、広い年齢・年代層に広げたテーマがいいのか、それとも年代を絞ったようなテーマがいいのかというところで、もし御意見がございましたら。いかがでしょうか。

(意見・質問等なし)

【会 長】 場合によってはその辺りも含めて、後でこの意見書の方にも反映させていただくということも可能かと思しますので、よろしくお願いいたします。

もし今御意見が出ないようでしたら、1回ここでまとめに入らせていただいて、意見書の方で取りまとめていくっていうふうな形にしたいと思えますけれども、よろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

【会 長】 それでは、まとめということで、今年度を実施予定のガバメントピッチにつきましては、協議会として応募して、健康課題のテーマについては、本日皆様の御意見を集約、後からの御意見もまとめて事務局までいただいて、事務局で整理して、皆様に後ほど確認していただくということで進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(異議なしの声あり)

【会 長】 はい。ありがとうございます。

それではガバメントピッチへの参加と健康テーマの取扱いについては、事務局で整理したものを皆様に1か月程度を目安にお送りさせていただきたいと思しますので、よろしくお願いいたします。

それでは時間も差し迫ってきましたが、最後に発言したい方、いらっしゃいますでしょうか。

(意見・質問等なし)

【会 長】 よろしいですか。それでは、最後に、今後の予定等を含めまして、「その他」について、何か事務局からありましたらお願いいたします。

【執行機関】 今後の予定なのですが、昨年11月に開催した時に、今年度は5月と11月に開催したいということでお話しておりましたが、第1回目が本日7月開催になりまして、次回の開催予定日は、社会実験を実施した後の2月に開催して、その中で、社会実験の内容の報告と、ガバメントピッチの状況を御報告させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【会 長】 ただいま、次回の日程等についての説明がありました。次回の日程については、来年の2月頃の開催予定ということですので、よろしくお願いいたします。

また、本日の内容にかかわらず、御不明な点や御意見等がありましたら、お配りしている意見書などで事務局まで御連絡くださるようお願いいたします。

それでは、私の進行はここまでとさせていただきます、事務局にお返ししたいと思います。委員の皆様には、会議の円滑な運営に御協力をいただきまして、ありがとうございました。

【執行機関】 長時間にわたり、御審議いただきましてありがとうございました。

以上をもちまして、令和5年度第1回茨城県央地域ウエルネス推進協議会を終了させていただきます。

本日は、ありがとうございました。